

## 第28回 みんなで語ろう！ ～いなむら市長とともに 車座集会～

<ターゲット型：市内でボランティアガイドをされている皆さん>

と き	平成29年7月19日（金） 午後2時30分～4時
と ころ	尼崎市立中央支所 2階コミュニティホール
参加者等	参加者 27人 市長ほか関係者 18人 合計 45人

### 1 車座集会の概要及び本日の進行スケジュールについて説明（職員）

#### 2 市長からの説明

尼崎市は、産業都市として発展してきており、いわゆる観光都市ではない。

今回、ミドリ電化の創業者が天守を寄贈しようと言ってくれたことがきっかけとなり、尼崎城再建プロジェクトが進行中ですが、それをいかにまちづくりに活かすことができるかが大切であり、改めて、尼崎版観光地づくりに取り組もうとしている状況です。

現在建設中の尼崎城を含めた「観光地域づくり」について、パワーポイントにより説明

- ① 観光地域づくりとは、DMOとは・・・
- ② 城内まちづくりと尼崎城再建プロジェクト・・・
- ③ 文化財収蔵庫・・・尼崎の歴史を学ぶ拠点として整備
- ④ 尼崎城址公園整備概要、施設構成・規模、全体行程表
- ⑤ 尼崎城がめざすもの・・・
- ⑥ 尼崎城の現在の工事現場の写真

・尼崎市には観光協会がない。そこで、従来型の観光協会ではなく、地域・企業・行政らが一体となって、経営として成り立つ観光づくりを目指す。その基盤となる組織、推進母体がDMO。

・元々、城内まちづくりの一環として城址公園の整備を計画していたところに城を寄付するという話が舞い込んできたので、城を復元し、一体化した整備を行うこととした。

### 3 参加している各グループの紹介

#### <チャンネルガイドの会>

運河を案内し、運河に関して歴史などを説明している。43号線より南に「こんな素敵なおところがあるんだ」と感心して帰られるが、43号線より南というのは一般の方はなかなか行く機会がない。年間8回ぐらい実施。

#### <近松かたりべ会>

現在13人で活動している。尼崎市の博物館・資料館というのを検索すると、近松記念館と世界の貯金箱博物館しか出てこない。先日、岡山からの問い合わせでその二つを見学したいと依頼があった。会で近松記念館を案内した時、入館料が200円というのは高いと言われた。市・公共施設ではなく地域の方々が造られた施設なので、ご協力いただきたいと説明した。また、会としては高齢者ばかりで後継者を募りたいが、近松自体が難しくてなかなか若者は参加してこないのが悩み。

## <尼崎ボランティアガイド（寺町ガイド）>

平成 7 年の阪神淡路大震災で被害を受けたあと、行政が歴史文化を考えたのが始まりで、平成 18 年にできて 11 年目になる。何がいいかというと、大阪みたいな大都市、その隣の尼崎に歴史がそのまま残っている、尼崎が城下町であり寺町がある。残っているというのが素晴らしいことであり、これが尼崎市の財産である。年間 1,500 人ほど案内しているので城ができるとどう関係するかわからないが、これからも頑張っていきたい。

### 4 市民と市長との対話

・ガイドをしていて一番困るのがトイレ。以前は南堀運河に綺麗なトイレがあったが、いつの間にか撤去されていて現在はない。元浜緑地にはあるが…南堀運河付近にトイレを設置してもらえないか？

また、寺町でもお寺で借りる以外トイレはないので、他市のように、案内地図にトイレマークをいれていただければ便利なので、是非載せてほしい。

⇒トイレ問題は早急に対処しないとだめですね。

・寺町を案内していて、よその観光地にはある休憩所がない。集合場所も設定が難しく困っているので、お城ができた時には集合できる場所も作っていただけると助かる。また、阪神尼崎駅北側には市営のトイレがあるが、南側にはない。寺町の案内では南側に集合するので、中央支所が使えれば便利だが、土日は休みで閉まっている。

⇒城が完成する頃には、土・日・祝日に中央支所を開けるよう考えている。

・以前よその市を訪ねた際、地元の子もたちがガイドをしていた。歴史の勉強にもなるし、郷土愛の醸成にもなるので本市でも考えてはどうか。また、今度できる城は本物ではないし、石垣も城のものではない。一部でもいいから本物を使って工夫すれば箔がつく。

⇒ストーリーを感じれるような工夫が大切。お城で少し本物を感じていただき、歴史館に足を運んでもらって尼崎の歴史の勉強をするという両方を経験する。

子どもガイドは大変いいことだと思ってるので教育委員会と調整しています。また、市内のホテルには外国人の観光客も多く宿泊しているので、食事や体験ができるプログラムを考え、その中で高校生に英語で案内ガイドをすることに挑戦してもらいたい。

・地域資産として大事な 21 世紀の森、元は公害の町と言われていたところに大きな公園ができ、魚の住む綺麗な運河になったことを知らない市民が多い。運河遊び、21 世紀の森との関連性、自然と共生するまちづくり、工場街のネオンなど。城がポツンとあるだけでなく、トータル的にマネジメントしてほしい。

⇒お城ができる頃には、DMOを立ち上げ、ホテルとの連携など色々なワーキング、ネットワークが必要と考える。権限や許可もあるので市も仲間に加わってやっていきたいと思っている。

・お城を建てる場所に黒松が植わっている、城と聞くと桜じゃなく松だがどう考えているのか。

⇒全国いずれの城にも松が植わっているが、今はパンチ力のある桜の植樹を考えている。

・城の名前は決まっているのか。歴史的には大阪城を守るための城であったが…

⇒城の名前は、「尼崎城」か、昔から言われている「琴浦城」で考えている。

・今後パンフレットを作ると思うが、尼崎だけではなく、大阪や神戸にも外国人が多いので、そこにも置いてもらえるような、外国人にも手渡せるガイドマップの作成をお願いしたい。

⇒広域連携ですね。

・市北部の田能から南の運河まであるので、車を持っていない人のためにも、ループバスを走らせるのはどうか。

・城ができれば大型バスの駐車場が必要だと思うが計画しているのか。今でも文化財収蔵庫にお願いすると、前の道路が大型バス乗り入れ禁止なので警察の許可が必要である。

⇒旅行者とも観光バスの導入を検討したが、大きなバスが来るとトイレの数も必要だがこのエリアにそんな場所はない。そこで、尼崎版として、少し離れた場所で待機してもらうなど、違う場所での駐車場の確保を考えている。

・近松かたりべ会のメンバーが高齢化で引退の年齢になっても後継ぎがいなくて困っている。近松は地味で難しいので、若者もとつきにくい。元々は市主催のかたりべ塾のサポーター制度が始まり。⇒総合文化センターで実施している文楽や歌舞伎と近松公園の見学とセットにするなど工夫すればいいのではないか。また、薪能と大物公園散策をくっつけるのも。昨年から実施しているサマーセミナーやみんなの尼崎大学として取り組むのもいいと思う。

・ガイドをしていて一番の喜びは、案内した人が喜んでくれる、尼崎にこんなところがあるんだと驚かれること。しかし、維持管理が大変。ガイドの位置付け、ガイドの募集、予算の有無についてはどう考えているのか。

⇒何も決まっていないのが現在の答え。今から着地点を見つけていくが、ボランティアだからこそできることもある。DMO全体として、お城の維持管理費も必要となるので、よそから来る人にもお金を使ってもらうなど経済面でも考えていかないとだめ。

・交通のアクセス、南北の交通網。りんりん道路もあるが、レンタサイクルの充実・整備を。

⇒自転車のまちづくりも進めているので、併せて検討していく。

・周りの城と連携してもいいんじゃないか。

⇒戸田氏鉄公が尼崎の次に行かれた美濃の大垣町、桜井藩松平の前の篠山城の青山さん、篠山市からもお互い、城繋がり連携していこうという話があるので、イベントを考えていきたい。

本日はたくさんのご指摘や提案をいただきありがとうございました。

城ができるまでの期間に検討すべきこと、解決すべきことがたくさんありますし、まだまだ始まったばかりでこれからが本番ですので、引き続き皆さまのご協力をお願いします。

本日はありがとうございました。

以 上